さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

「薬袋さんの寄せ植え」好評

道の駅とよとみに出荷 県内外に愛好者

中央市大鳥居の薬袋美知子さん(70)は20年にわたり、道の駅とよとみに季節の花の寄せ植えを出荷している。「薬袋さんの寄せ植え」として親しまれ、県内外に愛好者がいる人気商品。現在、クリスマスや正月向け商品の出荷がピークを迎えている。〈桑原久美子〉

葉ボタン、コニファー、シクラメン…。道の駅とよとみの店頭には、色とりどりの季節の花が寄せ植えされた大小の10～30鉢が並ぶ。道の駅の担当者は「常時これほど多くの寄せ植えが並ぶ直売所は県内ではあまりない」と話す。

20年にわたり道の駅とよとみに寄せ植えを出荷している薬袋美知子さん

「地産地消」「百日以上楽しめる寄せ植え」を意識し、地元の園芸農家から仕入れた花苗や、自分で種から育てた花など約10種を寄せ植えする。値段は鉢の大きさや花の数によって千円台～3千円台。肥料など資材価格が高騰しているが、仕入れや栽培を工夫して価格は据え置いている。

書道師範として教室を開いていたほどの腕前で、品種や管理方法を記した手書きのポップも好評。書道で培った美的感覚も寄せ植えに生かしている。

寄せ植えに添えられた手書きのポップ＝いずれも中央市浅利の道の駅とよとみ

茨城県出身で、庭の花を新聞紙にくるんで学校に持って行くのが日常だったという花いっぱいの家庭に育った。嫁いだ山梨でも庭で花をたくさん育てていたところ、できたばかりの道の駅とよとみに「出してみたら」と友人に勧められ、本格的に寄せ植えを始めた。「花好きが高じて試行錯誤しながらやってきた」と振り返る。

「車に乗って花苗の買い出しに向かうとき、寄せ植えがうまくいったとき、今でもわくわくドキドキする。この年になっても心ときめくものに関わっていられて幸せ」と薬袋さん。来店客との交流も楽しみといい、「これからも生き生きと花と向き合っていきたい」と話している。

（2023 年 12 月 15 日付 山梨日日新聞 19 面）

問1 中央市の薬袋さんが出荷している、季節の花の寄せ植えは、どこに行けば購入できますか。

問2 薬袋さんは、花の寄せ植えをする時に、何を意識していますか。

問3 花の寄せ植えに添えられた手書きのポップには、何が書かれていますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.